

市議会議員 17人決まる

任期満了に伴う市議会議員選挙は10月23日に行われ、即日開票の結果、現職11人、元職2人、新人4人の計17人が当選しました。



写真_開票作業の様子

選挙の概要

市議会議員選挙には、定数17議席に現職12人、元職2人、新人5人の計19人が立候補。当日有権者数は2万1,869人(男1万4,955人、女1万1,374人)。期日前などを含む投票総人数は1万5,274人(男7,251人、女8,023人)で

した。投票率は69.84%(男69.09%、女70.54%)。有効投票が1万5,119票、無効投票は155票ありました。

任期は本年11月1日から4年間。11月10日の市議会(臨時会)で、議長、副議長などが選出される予定です。

選挙結果 候補者別得票数などを紹介します

※小数点以下の按分票は切り捨て、年齢は投票日当日の満年齢。
表内では「公=公明」「共=共産」「無=無所属」、「現=現職」「元=元職」「新=新人」と表記

当落	得票数	候補者氏名	年齢	住所	党派など
当選	1,155	菊池 美也	54	松崎町	無・現
当選	1,103	菊池 美之	59	綾織町	無・新
当選	1,061	佐々木 大三郎	74	上郷町	無・現
当選	1,047	小林 立栄	47	六日町	公・現
当選	982	菊池 忠信	60	小友町	無・新
当選	922	荒川 栄悦	73	土淵町	無・現
当選	885	佐々木 恵美子	54	青笹町	無・現
当選	881	小松 正真	43	早瀬町	無・元
当選	863	千田 由美子	54	小友町	無・新
当選	857	多田 勉	68	鱒沢	無・現
当選	755	宮田 勝美	63	遠野町	無・元
当選	753	佐々木 敦緒	69	達曽部	無・現
当選	702	新田 勝見	70	附馬牛町	無・現
当選	561	昆 明美	61	綾織町	無・新
当選	557	菊池 浩士	62	下組町	無・現
当選	540	瀧本 孝一	68	達曽部	無・現
当選	538	菊池 由紀夫	69	青笹町	無・現
	519	佐々木 僚平	77	松崎町	共・現
	431	昆 定治	67	鱒沢	無・新

投票率 単位(%)

【計69.84%】男69.09% 女70.54%
※期日前投票と不在者投票を含む

投票区	男	女	計
遠野	63.73	65.82	64.88
綾織	74.03	76.98	75.55
小友1	83.69	79.52	81.54
小友2	82.01	86.01	84.04
小友3	75.00	86.21	80.42
附馬牛1	74.00	74.28	74.14
附馬牛2	69.98	71.35	70.18
松崎1	66.48	77.05	71.87
松崎2	76.42	74.63	75.49
松崎3	72.15	73.90	73.05
松崎4	61.39	62.23	61.83
土淵1	71.82	75.05	73.44
土淵2	73.58	78.62	76.10
土淵3	71.59	80.50	75.82
青笹	70.89	70.50	70.69
上郷1	69.65	72.76	71.23
上郷2	75.86	76.88	76.37
上郷3	71.88	77.50	74.69
宮守1	68.56	69.35	68.97
宮守2	65.80	68.09	66.97
達曽部1	80.29	78.50	79.35
達曽部2	82.50	85.33	83.87
鱒沢	80.48	77.26	78.79

妊産婦と 命守り15年

県立遠野病院分娩休止から5年後に市が開設した助産院「ねっと・ゆりかご」が15周年を迎え、記念講演会が開かれました。県内の産婦人科・周産期医療の最前線に立つ2人の医師らによる講演会の様子などを紹介します。



1・2_助産院の15年のあゆみや取り組みを紹介した小笠原氏と昆野助産師 3_今後の産婦人科医療のあり方を伝えた馬場氏

市助産院の主なあゆみ

- 平成19年(2007年) ● 遠野市助産院「ねっと・ゆりかご」開設
- 平成20年(2008年) ● 助産院で妊婦健診始まる
モバイルCTG(胎児心拍転送装置)とWebテレビ会議システムを活用
- 平成21年(2009年) ● 新生児蘇生法講習会開始
小笠原医師の指導のもと、助産師・看護師・救急救命士などが新生児蘇生法を学び、周産期医療環境の向上を目指す
- 平成25年(2013年) ● 周産期超音波画像伝送システム(Ver.1)導入
- 平成27年(2015年) ● 同システム(Ver.2)導入
- 令和元年(2019年) ● ICTG(分娩監視装置)を活用した相談・支援の開始
- 令和2年(2020年) ● 周産期超音波画像伝送新システム(Ver.3)稼働
市助産院で撮影した胎児の4D画像を医療機関に転送。市助産師が遠隔にいる医師と連携し、超音波検査を実施
- 令和4年(2022年) ● 市内宿泊施設を活用した産後ケア(日帰りデイ)開始

15年を振り返り、未来を考える

市助産院「ねっと・ゆりかご」の開設15周年を記念した講演会は9月24日、市民センター大ホールで開かれました。市民ら約200人が来場。市助産院監督医で県立二戸病院長の小笠原敏浩医師が15年のあゆみを、同助産院の昆野幸恵助産師が市の産後ケア事業の現状と今後の展望を報告しました。

同日は、本県の産婦人科・周産期医療の最前線で力を尽くす岩手医科大学附属病院副院長兼産婦人科主任教授の馬場長医師が特別講演。「いわてから考えるこれからの産婦人科医療」と題し、産婦人科医療の現状や女性と子どもたちの命を守るために県内の周産期医療の集約が必要であることなどを紹介しました。

参加した菊池華歩さん(遠野高3年)は、「なぜ遠野に産婦人科がないのか疑問だったけれど、馬場先生の話聞き、命を優先しているからだと感じた。不便はあるけど、安全な場所で産み遠野で育てる形もいいのかと思う機会になった」と話しました。

小笠原医師は、「出産だけでなく、産前産後をしっかりケアすることが大事。市助産院のケアを簡単に利用できる仕組みや、活動を続けられるようサポートしていくことも大切」と助産院運営の展望を語りました。

岩手医科大附属病院副院長・馬場長医師に聞きました

interview

Q/県内の産婦人科、周産期医療の状況は

出産時、母子の命を守るためには、多くの専門スタッフや医療機器などの体制を整え、チームで対応することが必要です。県内で考えると、周産期医療は集約していく必要があると考えています。

Q/遠野で出産を望む声も多い

何よりも母子の命が大事。医療体制が整った安全な場所で産むという考え方も必要です。遠野の助産院は他の地域のお手本で、県内に増えてほしい施設です。産前産後の親と子をケアする場所として期待しています。